

大 学 史 研 究 通 信

第 104 号 2022 年 3 月 15 日 (火)

大学史研究会

第 104 号の内容：第 44 回大学史研究セミナー報告・大学史研究セミナー参加記・2021 年度総会報告・『大学史研究』編集委員会からのお知らせ・運営委員会からのお知らせ・運営委員・事務局員の退任挨拶・編集後記・大学史研究会運営委員・事務局員一覧

2021 年度第 44 回大学史研究セミナー報告

2021 年 12 月 11 日 (土)、12 日 (日) に第 44 回大学史研究セミナーがオンラインで開催されました。プログラム面では例年通りの開催となりました。シンポジウム「大学と戦争」では、荻野富士夫氏 (小樽商科大学名誉教授)、中村信之氏 (大阪大学)、吉葉恭行会員 (岡山大学) によるご報告と逸見勝亮会員 (北海道大学名誉教授) によるコメントをいただきました。大学史研究会の良さは多様な研究領域の研究者が議論し合えるところ、という諸先輩方のお言葉通り、ご登壇いただいた 4 名の先生方から、大学と戦争の在りようを考察するヒントが示されたのだと思います。

自由研究発表では羽田貴史会員 (広島大学・東北大学名誉教授) から「1960-70 年代大学史研究の新しいアプローチ - 日教組合同教研集会にあらわれた大学改革論 -」、大矢龍弥会員 (広島大学大学院) から「ファキュルテは孤立していたのか - 19 世紀中葉トゥルーズの場合 -」のご報告がありました。参加者からの多くの質問は勿論のことですが、ご発表されたお二人の研究への向き合い方、コロナ禍における制約を受けながらも、それを克服しようとする研究報告に刺激を受けました。

参加者は 2 日間併せて 66 名でした。オンライン開催では通信状況や資料の閲覧に際し、ご報告をいただいた皆さま、そして参加者の皆さまに、多くのご配慮をいただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。

(セミナー担当：山本珠美、船勢肇、山本尚史)

大学史研究セミナー参加記

福留東土 (東京大学)

2021 年 12 月 11 日・12 日に開催された大学史研究セミナーは、昨年度に続き、2 度目のオンライン開催となった。この参加記では、初日に開催されたシンポジウム「大学と戦争」について記す。シンポジウムでは以下の 3 つの発表を聞いた。

荻野富士夫氏「戦時下大学の思想統制と動員」

中村信之氏「戦前期における帝国間の文化交流 - 日米学生会議と日比学生会議を題材に」

吉葉恭行氏「科学技術動員と大学」

いずれも分厚い研究の蓄積に基づく詳細な発表が行われた。各発表を聞いて特に印象に残った点を記す。荻野氏の発表では、教育における思想統制から思想動員へ至るプロセスが、学校教育と大学の双方について論じられた。戦時情勢の変化に伴って統制と動員の状況が刻々と変わっていく様子が手に取るように理解できた。また、終戦後の教育への連続と断絶にも触れられたが、思想統制は戦時下において先鋭化するものの、決して戦時下のみの問題ではないことが認識された。発表冒頭で、現代における新たな戦時体制構築や 2020 年に起きた日本学術会議任命拒否問題に触れられたが、それらと基底で通じる問題である。

中村氏の発表では、戦前期における主に日米間の文化交流について論じられた。現在でも

継続されている日米学生会議の源流と当時の交流状況が紹介された。日本側は、満州政策の正統性を米国側参加者に理解させることを目的にしていたとのことであった。日本とフィリピンの交流の担い手となった日比学生会議とも合わせ、政府間で行われる伝統的外交に対して海外市民を対象に行われる対外行動であるというパブリック・ディプロマシーが当時の状況下でいかにして展開されていたかを知ることができた。

吉葉氏の発表では、戦時下の科学技術政策の枠組みに大学における研究がいかに位置付けられたかが論じられた。とりわけ、戦時研究の補助者の役割を担うことになった大学院特別研究生に焦点が当てられ、史料分析と当事者へのヒアリングは当時の研究現場の状況を克明に記すものであった。結果的に戦時下の科学技術動員の一端を担っていたとしても、研究現場ではそうした認識が明確に共有されているわけではなかった。公共や社会のための研究は、それを受け止める社会の情勢によって異なる意味付けを与えられることが改めて認識できた。

このシンポジウムが開催されたのは2021年12月だったが、遅ればせながら2022年3月になって参加記を書こうとすると、この企画がより重たい意味を持っていたことに思いが至る。「戦時下の大学」が、過去のことではあり得ないことを体感してしまったからである。このことは現在のウクライナの戦況を見据えつつ、改めて取り上げなければならない点であろう。コメンテーターを務められた逸見勝亮氏、意義深いシンポジウムを企画された山本尚史氏に御礼を申し上げる。

大矢 龍弥（広島大学大学院）

第44回大学史研究セミナーは、2021年12月11日（土）、12日（日）に、Zoomを使用しオンラインで開催されました。11日にシンポジウムが行われ、翌12日に自由研究発表が行われました。

筆者自身は2日目の自由研究発表で、19世紀フランスの地方都市トゥルーズの大学（に相当する高等教育機関）について発表させていただきました。筆者は、コロナ禍で史料調査が思うようにできない中、オンラインで入手できたものを用いて、修士論文では当時の新聞や慈善団体の報告書の一部から学生生活の一端を明らかにし、博士課程後期進学後はその際に課題となっていた学内での状況について研究しております。本セミナーでは、主に後者の内容をトゥルーズの高等教育機関の離散状況を問うかたちで発表いたしました。質疑応答では、史料の中で語られている大学は理想像なのか現実に存在するものなのかといったご指摘や、制度的な裏付けやフランス大学史上の位置付けについてのご意見を頂戴でき、今後の研究の課題として大きな示唆を得ることができました。拙い発表ではありましたが、貴重なご質問・ご意見を頂きましたこと改めて御礼申し上げます。

また、筆者が研究セミナーに初めて参加した昨年度の第43回ではシンポジウムがなかったため、1日目のシンポジウムは初めての参加でした。非常に楽しみにしておりましたが、自身の発表を翌日に控えて焦る思いから集中して議論を追うことができず、大変申し訳なく思っております。しかしながら、「大学と戦争」というテーマのもとに科学史や教育史のみならず日本近代史、国際関係史からも大学史が議論されたことには、大学史研究の広範さ、奥行きを実感いたしました。今後のシンポジウム報告を待って改めて勉強させていただきたく思います。

最後になりますが、今回ご報告くださいました先生方、セミナーの企画・運営をしてくださいました事務局の先生方に、この場を借りて心より感謝申し上げます。

2021 年度総会報告

セミナー当日の 2021 年 12 月 11 日、以下の通り Zoom によるオンラインによって総会を開催しましたので報告します。

《報告事項》

1. 運営委員会・事務局活動報告

- ・第 43 回大学史研究セミナー：オンラインにて 2020 年 12 月 6 日（日）開催。参加者 34 名。
- ・運営委員会兼事務局会議：3 回（3 月、5 月、12 月）オンライン／メールにて開催。
- ・大学史研究通信：4 回発行（101 号、102 号、103 号、セミナー・総会号外）。

2. 会員数報告

- ・2021 年会員数：128 名（機関会員 7 を含む）。
- ・昨年以降の増減：入会者 12 名（新入会機関 1 を含む）、退会者 2 名。
（会計年度との違いがあるため、会計報告の会員数とは異なる場合がある）

3. 紀要編集委員の交代

紀要第 31 号の編集委員会の編成について、以下の通り報告された（敬称略）。

委員長：福留東土（東京大学）

副委員長：福石賢一（高知工科大学）

委員：木戸裕（元国立国会図書館）、熊澤恵里子（東京農業大学）、大川一毅（岩手大学）、吉野剛弘（埼玉学園大学）

4. 2021 年度会計報告

大学史研究会 2021 年度会計ならびに 2022 年度予算案につきまして、以下に概要をご報告します。

【 収入 】

2020 年度会計からの繰越金は、2,803,282 円でした。2021 年度年会費につきましては 103 名の会員より納入いただき、年会費・入会金の納入総額は、678,000 円でした。年会費をお納め下さった会員各位におかれましては、この場を借りてお礼申し上げますとともに、今後も引き続き研究会の発展と円滑な運営のために、年会費納入に対するご理解ご協力をお願い申し上げます。

【 支出 】

2021 年度は、前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響があり、各会議体がオンライン等で開催されたため、編集委員会会議費・交通費及び、事務局会議・交通費の支出はございませんでした。通信費は 168,332 円であり、これは「大学史研究通信」発行の印刷、会員への諸連絡の印刷物、あるいは、年会費納入依頼通知の印刷等に関わる経費も含まれています。紀要「大学史研究」の出版費用は 693,492 円です。封筒等の消耗品や振込手数料は 1,970 円、過払い分の年会費の返金として 5,000 円を諸経費として計上しています。次年度繰越金は、1,934,488 円となっております。次年度への繰越金を除く総支出は 868,794 円、収支の差は、190,768 円のマイナスとなりました。

「2021 年度会計報告」に明記されているとおり、当該年度の会計は五島敦子会員ならびに吉野剛弘会員に監査を依頼し、精細な監査の上会計の適正処理をご承認いただきました。

《審議事項》

5. 2022年度予算

大学史研究会では、次年度の予算案につきましては、事務局による基本案を総会に提示し、ここでの審議を経て、最終決定をいたしております。例年と同様、2022年度予算も上記の手順にしたがって予算案を決定しましたので、以下にご報告します。

【収入案】

収入は、年会費と紀要売上金の2つになります。とりわけ、本研究会の運営経費は、年会費の納入に大きく依存しております。

年会費につきましては、前年度並みの600,000円を収入予定額として設定いたしました。その他の収入については過去に倣う形とし、総収入額は2,544,518円、繰越金を除く総収入額は610,030円といたしました。

【支出案】

支出案は、新型コロナウイルス感染症の影響の見通しが困難なため、同感染症流行前の予算案を元に算出いたしました。

『大学史研究』を発行する予定になっております。その発行経費（制作・印刷・発送費の総計）を700,000円計上しました。編集委員会会議費・交通費は100,000円、事務局会議・交通費は80,000円としました。こその他の諸経費も、ほぼ例年通りの額を計上しております。消耗品費・手数料は10,000円、謝金は30,000円、通信印刷費は200,000円でこれはホームページの費用も含んでいます。予備費として1,389,518円を計上しております。2021年度から次年度への繰越金は1,934,488円、繰越金をのぞく総支出予算案は1,150,000円を予定しております。繰越金及び予備費を除くと、544,970円の支出超過となっており、現状の予算規模のままでは将来的には特別会計予算を用いることになり、引き続き収入増加策を要する状況にあります。

以上、「2021年度会計報告」および「2022年度予算案」につきまして、ご質問ご提案等ございましたら、事務局までご連絡のほどよろしくお願い申し上げます。

大学史研究会 総会資料 (2021年12月11日)

大学史研究会 2021年度 会計報告
(自2020年10月1日～ 至2021年9月30日)

【一般会計】

収入の部

科目	2021年度予算	2021年度実績	備考
前年度繰越金	2,125,256	2,125,256	
年会費・入会金	550,000	678,000	105名(過半数分含む)内新規会員8、新規学 生会員1、新設機関会員1
「大学史研究」売上等	10,000	0	
セミナー開催経費等戻し入れ	10,000	0	
雑収入	30	26	利息
計	2,695,286	2,803,282	

支出の部

科目	2021年度予算	2021年度実績	備考
紀要「大学史研究」関連費用	700,000	693,492	印刷原稿執筆費12,679円、テープおこし 30,000円(21年度)
編集委員会会議費・交通費	100,000	0	
事務局会議・交通費	80,000	0	
消耗品費・手数料	10,000	1,970	文房や封筒及び振込手数料等
謝金(アルバイト)	30,000	0	
通信印刷費	200,000	168,332	大学史研究通信費送達費及びインターネット使 用関連料金等
セミナー開催経費	0	0	
予備費	1,575,286	0	
諸経費	0	5,000	過払い分年会費の返金
次年度繰越金	0	1,934,488	
計	2,695,286	2,803,282	

特別会計及び次年度繰越金を除く 収入計 678,026
 支出計 868,794
 収入-支出 △ 190,768

【特別会計】

収入の部

科目	金額	備考
前年度繰越金	2,500,000	

支出の部

科目	金額	備考
次年度繰越金	2,500,000	

上記のとおり、ご報告いたします。事務局会計担当 山崎慎一

上記の会計報告について会計監査を実施した結果、領収書ならびに預金通帳等は、全て妥当かつ正
 確に処理されていることを認めましたのでご報告いたします。

監事 五島敦子
 監事 吉野剛弘

大学史研究会 総会資料 (2020年12月11日)

2022年度 予算案

【一般会計】

収入の部

費目	収入の部		支出の部	
	前年度実績	予算	前年度実績	予算
前年度繰越金	2,125,256	1,934,488	紀要「大学史研究」関連費用	693,492 700,000
年会費・入会金	678,000	600,000	編集委員会会議費・交通費	0 100,000
「大学史研究」売上等	0	10,000	事務局会議・交通費	0 80,000
セミナー開催経費等戻し入れ	0	0	消耗品費・手数料	1,970 10,000
雑収入	26	30	謝金(アルバイト)	0 30,000
			通信印刷費	168,332 200,000
			セミナー開催経費	0 30,000
			諸経費	5,000 5,000
			予備費	0 1,389,518
			次年度繰越金	1,934,488 0
計	2,803,282	2,544,518	計	2,803,282 2,544,518

前年度繰越金を除く総収入(a) 610,030 予備費と次年度繰越金を除く総支出(b) 1,155,000
 (a)-(b) = △ 544,970

【特別会計】

収入の部

費目	金額
前年度繰越金	2,500,000
計	2,500,000

支出の部

費目	前年度実績
次年度繰越金	2,500,000
計	2,500,000

上記のとおり、ご提案いたします。大学史研究会事務局

6. 次期運営委員の選出

- ・推薦名簿に基づく信任投票を行い、以下の会員が運営委員として選出された（敬称略）。
 - 坂本辰朗（創価大学）：運営委員会代表
 - 福留東土（東京大学）：紀要編集委員長
 - 福石賢一（高知工科大学）
 - 船勢 肇（長崎女子短期大学）
 - 山崎慎一（桜美林大学）
 - 山本珠美（青山学院大学）
 - 山本尚史（筑紫女学園大学）：事務局長
- ・事務局員として以下の会員が承認された（敬称略）。
 - 蝶 慎一（広島大学）：通信担当
 - 原 圭寛（湘南工科大学）：会計担当
 - 船勢 肇（長崎女子短期大学）：会員情報担当
 - 山崎慎一（桜美林大学）：会計担当
 - 山本珠美（青山学院大学）：セミナー担当
 - 山本尚史（筑紫女学園大学）：事務局長
- ・次期運営委員の選出に伴い、以下の3名が運営委員・事務局員を退任した（敬称略）。
 - 岡田大士（中央大学）：2004年より事務局員、2011年－2017年事務局長。
 - 浅沼薫奈（大東文化大学）：2008年より事務局員。
 - 深野政之（大阪府立大学）：2011年より事務局員、2018年－2021年事務局長。

7. 「運営委員会の構成、選出方法に関する内規」の制定

「大学史研究セミナー・総会 号外」において審議をお願いしていた「大学史研究会運営委員会の構成、選出方法に関する内規《案》」について審議され、投票の結果承認された。以下に制定された「大学史研究会運営委員会の構成、選出方法に関する内規」を示す。

「大学史研究会運営委員会の構成、選出方法に関する内規」

(目的)

第1条 本内規は、大学史研究会会則 13 条 4 項の規定に基づき、運営委員会の構成及び選出方法について定めることを目的とする。

(運営委員会の構成)

第2条 運営委員会には、代表、事務局長、編集委員長、その他研究会の運営に必要な役職を置く

(運営委員会の定数)

第3条 運営委員会の定数を、7名とする。

(運営委員の選出)

第4条 運営委員は、次の各号のいずれかの場合に、総会において選出する。

- (1) 運営委員の任期満了による改選
- (2) 運営委員の辞任その他による欠員補充

(運営委員の選出方法)

第5条 運営委員の選出は、推薦された候補者について総会で決定する。推薦は、任期満了による改選前の総会で推薦委員会を設置して行う。その提案は運営委員会が行う。ただし、前条第2号の場合には、総会に代えて運営委員会で推薦委員会を設置できるものとする。

(推薦委員会)

第6条 推薦委員会は7名を通例として組織し、過半は運営委員会以外から構成されるも

のとする。推薦委員会は、候補者の推薦にあたって会員に自薦・他薦を求めるなど、幅広く会員の総意が反映するよう努めなければならない。

(候補者の選定)

第 7 条 推薦委員会は、専門分野、年齢、性別、所属組織のバランスに配慮して、研究会の運営に適切な会員を候補者として選定する。推薦に必要な事項は推薦委員会において定めるものとする。

(守秘義務)

第 8 条 推薦委員会委員は、選考過程における情報を委員会以外に漏らしてはならない。

(補則)

第 9 条 本内規の改廃は、総会出席者の過半数による議決による。

付則：

1. 本会則は、2021 年 12 月 11 日より施行する。

[参考] 会則 13 条

第 13 条 本会に、運営委員会を置き、会の運営全般を統括し、会務を代表する。

2. 運営委員会は、代表 1 名を互選する。
3. 運営委員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。
4. 運営委員会の構成、選出方法は別に定める。
5. 運営委員会は、臨時総会を招集することができる。

(事務局長：山本尚史、会計担当：山崎慎一、原圭寛)

『大学史研究』編集委員会からのお知らせ

紀要編集委員会では『大学史研究』31 号の刊行を以下のスケジュールで進めます。会員から広く原稿を募ります。投稿を希望される方は 2022 年 3 月 31 日までに研究会ウェブサイトに掲載している投稿申込フォームに入力して下さい。

投稿募集カテゴリーは、論文、研究ノート、書評、史料・図書紹介です。

投稿カテゴリーについては、申込時に執筆者の希望を添えてもらってもよいですし、特に指定されなくても構いません。最終的な掲載カテゴリーは、審査の上、編集委員会で判断します。また、申し込み時に「投稿予定の原稿タイトル」を記入いただきますが、タイトルは投稿時に変更可能です。

3 月末までに投稿申込された方に詳しい投稿方法をお知らせします。それ以降のスケジュールは以下の通りです。

投稿申込期限：2022 年 3 月 31 日

原稿締切：2022 年 6 月 30 日

刊行予定：2022 年 11 月

会員諸氏の日頃の研究成果を広く掲載したいと思っております。多くの投稿をお待ちしています。

(紀要編集委員長：福留東土)

運営委員会からのお知らせ

このたび、運営委員会代表をお引き受けすることになりました。旧い会員の方は、坂本は随分昔に、確か事務局代表をやっていたのではないかと、記憶されている方々も多いかと思えます。旧悪を追及されかねませんが、まさにそのとおりです。

今回のお話をいただいたときに、かなり迷いました。ただ、現在の「大学史研究会運営委員会の構成、選出方法に関する内規」が委員会メンバーの選出にあたって、敢えて年齢のバランスにも配慮すると謳っているところから、逆に年齢を重ねた会員にもそれなりの責務があるのだと受け取り、お引き受けいたしました。

責務とは報恩と言い換えてもよいかと思えます。別のところで書いたことですが、この研究会がなかったら、私は恐らく、大学史研究には進まなかったと思います。さらには、ほぼ半世紀におよぶ研究生生活の大部分を、大学史研究会とともに歩んできたからです。

私の仕事は、アメリカ合衆国大学史であり、特に、19世紀以降の大学教育とジェンダーの関係が興味を中心にあります。さらに、ここ10年ほどは、大学における研究の機能の成立の問題に興味があり調べています。よろしく願いいたします。

(運営委員会代表：坂本辰朗)

運営委員・事務局員の退任挨拶

これまで長年にわたって運営委員会を支えてくださいました浅沼薫奈先生、岡田大士先生、深野政之先生（五十音順）がご退任されました。これまでのご尽力に心より御礼申し上げます。

「退任にあたって」

現在、勤務校の百年史編纂のただ中にいます。その参考とすべく多くの大学の沿革史を確認すると、執筆者の専門分野が異なっても、記述のなかに共通する内容を見つけることがあります。それらは数十年前の大学史研究会において、根拠となる基本資料とともに報告され蓄積されてきた研究成果であったりします。いまや基本的な事項となり、「当たり前の事実」として記されていること、大学史の根底を支える基礎的研究が本研究会で行われてきたこと、その研究を行われてきた方々が今もなお新たな知見を提供し活躍されていることに畏敬の念を禁じ得ません。

大学史研究会で事務局員となって以来、いつの間にか10年以上が経過していました。この間、新入会員の方を中心に多くの会員とメールをやりとりさせていただきました。研究会のあり方についても議論を重ね、尊敬できる研究者の方々と出会うことも出来ました。また、どなたのメールにも個性があり、皆さんと交流できたことは個人的にはとても楽しく、貴重な経験をさせていただいたと思っています。どうもありがとうございました。事務局・運営委員は退任しますが、これからも先人に倣い、愚直ながら大学史研究会の発展に貢献できればと思います。引き続き、どうぞよろしくお願い申し上げます。

(浅沼薫奈)

「運営委員退任のご挨拶」

2004年より事務局員、2012年から2017年まで事務局代表を務めさせていただきました。事務局代表として反省すべきは、紀要の刊行が滞ってしまったことです。研究会の活動意義に照らし合わせてもおわびしかありません。幸い羽田編集委員長、福留編集委員長のもと、紀要の刊行が復調しており、お二人のご尽力に大変感謝しております。

ところで事務局員として、過去のセミナー報告者や紀要の著者を振り返ることが何度かあ

りました。大学史研究会の関係者の多くは、その後歴史分野のみにとどまらず、日本の高等教育研究全体をリードする研究者となっておられる方が多数いらっしゃいます。科学史・技術史の研究室で教育を受けてきたものとして、科学・技術の人材養成の器たる大学、その来し方行く末を自由に研究発表する場として、大学史研究会は私にとっていまでも大変魅力的な存在です。これからは自身の研究活動で大学史研究会に貢献できるよう頑張りたいと思います。坂本運営委員長、山本事務局長、福留紀要編集委員長の体制で、大学史研究会の活動がますます盛んになることを祈念いたします。

(岡田大士)

「退任にあたって」

2011年より事務局員として10年間、そのうち2018年より3年間は事務局代表の任を務めてまいりました。退任にあたり、まず研究会創設以来の諸先輩方のご尽力によってこの研究会が続いてきたことに敬意を表します。事務局長就任当初、前・紀要編集委員会のみなさまには、事務局長として強引な手法をとりましたこと、不快に思われたとすればここでお詫び申し上げます。

事務局代表の期間には、会則の制定と運営委員会の設置、日本学術会議会員の件への声明発出などを行ってまいりました。また羽田貴史先生と現・編集委員会のご尽力による紀要の定期刊行について喜ばしく感じております。

私事ですが、研究会には39歳で社会人大学院に入学し、寺崎昌男先生のゼミで修士論文を書いたことから入会させていただきました。当時は「若手研究者が事務局活動を担う」という方針があり、若手とはとても言えない年齢でしたが、諸先輩方、若手研究者のみなさまに支えていただいていた事務局を務めることができました。あらためて感謝申し上げます。

(深野政之)

＜異動に伴う会員情報更新の届出をお願いいたします＞

所属や住所等に変更のある会員は、事務局までご一報ください。ホームページ掲載の「事務局連絡先」フォーム、あるいは年会費払込票（郵便口座）の「通信欄」を利用することも可能です。また、今後は会員の皆様への連絡を、「通信」と併せてメールで配信していくことも検討しております。事務局へのご登録が旧アドレスのままの方や、メールアドレスの登録をされていない方はご連絡いただきますよう、ご協力をお願いいたします。

(会員情報担当：船勢肇、浅沼薫奈)

編集後記

この通信から新運営委員・事務局員の体制となります。会員の皆さまへの適切な情報発信に努めます。そしてご退任された深野先生、岡田先生、浅沼先生に改めて感謝申し上げます。

(事務局長：山本尚史)

『大学史研究通信』第104号の編集は事務局・蝶慎一・山本尚史が担当いたしました。
連絡先： chou[[@]]hiroshima-u.ac.jp

『大学史研究通信』第105号は、2022年8月発行予定です。

大学史研究会

運営委員（五十音順）

坂本辰朗（創価大学）	福石賢一（高知工科大学）
福留東土（東京大学）	船勢 肇（長崎女子短期大学）
山崎慎一（桜美林大学）	山本珠美（青山学院大学）
山本尚史（筑紫女学園大学）	

事務局員（五十音順）

蝶 慎一（広島大学）	原 圭寛（湘南工科大学）
船勢 肇（長崎女子短期大学）	山崎慎一（桜美林大学）
山本珠美（青山学院大学）	山本尚史（筑紫女学園大学）

<事務局連絡先>

事務局へのお問い合わせは、下記代表Eメールアドレスまでお願い致します
E-mail: jshshe[[@]]daigakushi.jp